



8月14日は、2007年に66歳で亡くなった大相撲の第53代横綱琴桜＝倉吉市出身の命日です。現役時代は強烈なぶつかまりから「猛牛」と恐れられ、引退後は「佐渡ヶ嶽部屋」を継承し多くの関取を育てました。今回は、琴桜の相撲人生を紹介します。

琴桜の本名は、鎌倉紀雄さんです。1940年11月26日生まれで、倉吉東中、倉吉農高時代は柔道部で活躍しました。高校3年の時に助っ人として出場した相撲大会の活躍が当時の佐渡ヶ嶽方の目に留まり、風呂敷包一つで上京。59年に入門しました。

猛牛で鍛えられ、左からのぶつかまりやのどげ、右四つ、寄りなどを武器に初土俵から3年目の62年に十両に昇進。63年に幕入りき果しました。ところが、64年1月場所で行足を複雑骨折する大けがを負ってしまいました。「再起不能」とまで言われましたが、琴桜は三朝温泉での温泉療法で見事に復活を果たします。一度は十両まで登りましたが「恐ろしき努力」で再入幕し、67年に

今回の〇〇は「琴桜」です。



桜ずもうを観戦する元横綱琴桜の佐渡ヶ嶽親方＝2005年4月



母校の成徳小前に建立されている琴桜の銅像
＝倉吉市仲ノ町



琴桜の優勝額や化粧まわしを展示している琴桜記念館＝倉吉市魚町

『努力すれば報われる』 郷土愛あふれる横綱

26歳で念願の大関に昇進しました。68年7月場所での初優勝、69年3月場所での2回目の優勝をし、横綱への期待が高まりましたが、けがが相次ぎ、苦しい時期が続きました。しかし、どん底からはい上がるのが琴桜の真骨頂。72年の11月場所、73年1月場所でも連続優勝し、32歳で横綱に昇進しました。けがの影響もあり、横綱在位わずか8場所を引退しました。佐渡ヶ嶽部屋を継承してからは、多くの幕内力士を育て、2005年11月場所を最後に定年退職し、46年間の相撲人生を終えました。

記念館オープン

地元倉吉市では、毎年4月に琴桜を顕彰する「桜ずもう」が開催されています。親方になった琴桜は部屋力士を連れて必勝会場に足を運び、小中学生力士が奮闘する様子を目を細めて見ていました。その姿からは、郷土を愛する琴桜の人格がにじみ出ているように見えます。

琴桜は2003年に同市倉吉市民に選ばれました。同市魚町には、7月に琴桜記念館がオープンし、化粧まわしや優勝額などが展示されています。初土俵から14年掛かって横綱に昇進した琴桜の信条は「努力すれば報われる」でした。皆さんも勉強やクラブ活動などで努力を惜しまず、頑張ってください。

琴桜の優勝額や化粧まわしを展示している琴桜記念館＝倉吉市魚町